

わたしたちの将来と税金

田中 彩夏

「税についての作文」を考えた時、私は消費税しか払ったことがない気がしたので、夕食中に税金について家族に聞いてみた。

「家を建てた時の消費税が高かったよね」と母が言うと、父が「あの時はまだ5%だったけど、消費税で車を買える額だったわ」と笑った。私が大人になって家を建てる頃には10%以上になっているはずなのでそんな買い物は絶対にできないと不安に思った。

消費税は皆が同じように支払うので公平と思ったけど、お金持ちとそうでない人では負担する感覚が違うことに気付いたので父に聞くと、「家や車などの高額な買い物はそれぞれの所得に見合った買物をすれば良いけれど、食べ物や日用品については外国のように税率を下げて欲しい」と言い、欧州では消費税が25%もする国があるけど、その分医療費や教育費が無料だったり、老後の生活が保障されていたりすることを教えてくれた。

納めた税金が私たちの為に使われている例として、病院へ保険証と一緒に持参することも医療費受給者証や、児童手当などの制度について聞くと、神戸市や兵庫県、国からいろんな福祉サービスを受けていることが分かった。

税金はきちんと納めなければならないけど、いろんなサービスについても正しく理解して税金がどのように使われているのか興味を持つことが大事なのだと思う。そこで父にどうやったら覚えられるのか聞くと、「全部覚える必要はない。何か生活の中で困った時にこんなサービスが無いのかな？と疑問に思えばそれで良い」、それより日本国民の三大義務をしっかりと理解するよう言われた。

調べてみると、「教育・勤労・納税」の三つで、私たちは今高校生で義務教育を終えてきた。勉強をしなくてはいけないという義務ではなく、教育を受ける権利があると書いていた。世界には紛糾や貧困で勉強したくてもできない子どもたちがたくさんいる。勤労義務も教育と同じように無理矢理働かせるということではなく、仕事をしている人には国や県から様々な手助けをしてくれる。働かずに困った時だけ助けて欲しいというのはダメということか。

最後に納税は、教育や勤労と違って権利はどこにも書いていなかった。皆が正しく納税することで様々な社会保障サービスを受けられるので、国民の三大義務すべてが無理矢理やらされるということではなくて、自分や家族を守る為にも守っていかなければならない『義務』であることが分かった。

税金の話から少し外れたかもしれないけど、しっかり勉強して、働いて、税金を正しく納める事で、日本の人口が減ってどんどん高齢化が進んでも、皆の生活が豊かになると信じて頑張りたい。